

# 平和が丘防災タイムズ 第29号

平和が丘学区防災委員会

早いものでもう師走ですね。何かと慌ただしくなってきましたが、皆さまご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、防災タイムズ第29号では、9月に行われました防災あんしん調査結果について、改めてご紹介させていただきます。

## ○第13回 防災あんしん調査票 集約結果

10月に第13次防災あんしん調査票の集約を完了し、結果につきましては各自治会を通して回覧で報告させていただきました。ご協力いただきました自治会や住民の方に御礼申し上げます。

今回の調査票の回収率は85.4%と、過去最高の86.7%(H26)に比べ1.3ポイント低下しており、災害時の共助のためにもより多くの回収が望まれます。

なお、防災あんしん調査票は平和が丘学区独自の取り組みですが、H23年の東日本大震災以降、行政や他の学区等からも特に注目されています。

### (1) 回収結果

	配布世帯数	報告世帯数	調査票回収率	総人数 (報告人数合計)	一世帯あたり 平均人数	75歳以上 世帯数	要援護者 人数
H27年度	1,979世帯	1,688世帯	85.3%	4,404人	2.61人	428世帯(25.3%)	122人(7.2%)
H28年度	1,945世帯	1,682世帯	85.4%	4,324人	2.60人	445世帯(26.8%)	106人(6.4%)

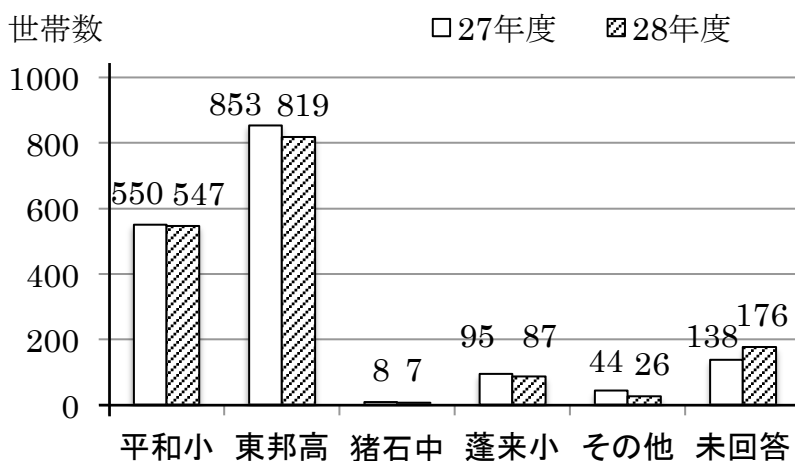
※調査票の配布ができない管理マンション等があるため、配布世帯数および総人数等は学区全体の正値より少なくなっています。

75歳以上の高齢者がおられる世帯は学区全体で26.8%と、H27年度25.3%に対し1.5ポイント増加しており、微増ではありますが高齢化が進展していることが伺われます。

なお、自治会ごとでは、最高で39.5%を占める自治会もありました。(最小19.7%)

また、106人の方が災害時に何らかの援護(介助)が必要であり、自主防災会やご近所同士での助け合いが重要になります。日頃から顔の見えるお付き合いをお願いします。

### (2) 避難所への避難世帯数



約8割の方が、平和が丘小学校または東邦高校を避難先とされており、依然避難先のバランス化が課題となっています。

また、今年度は報告のあった世帯のうち約1割(176世帯)の方が、避難先を未回答とされており、避難先のさらなる周知啓蒙も必要と思われれます。

※コミセンは要援護者用の避難所として活用することになっています。

## ○自主防災組織「自主防災会」について

名古屋市では昭和56年から震災対策事業として、町内会や自治会単位に自主防災組織「自主防災会」が結成され、現在ではほぼ100%が結成されています。

「自主防災会」は、会長、副会長をリーダーとして、その下に役割(情報班、消火班、救出救護班、避難誘導班、給食給水班)ごとの班長を置いています。

そして災害時には、各班長の下、地域住民が各班員として自主的に活動し、被害状況の把握や二次災害の防止、救出救護、避難所運営などに携わることになりますが、少しでも多くの方にご協力いただくと、よりたくさんの方を助けることが可能になり、また二次災害の防止にもつながるため、ぜひ皆さまのご協力をお願いいたします。

なお、今までに会長、副会長、班長を務められた方もOBとして自分の持っている知識や技術を活かしていただくと、より被害の防止・軽減につながるため、ぜひご協力をお願いいたします。

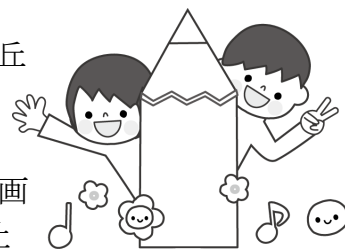
## ○子ども会育成連絡協議会の役割と活動

平和が丘学区の子ども会は、公務員住宅・光る二丁目・平和が丘三丁目・平和が丘四丁目・平和が丘五丁目・八前三丁目の6つの単一子ども会、200名の子ども達が加入している団体です。

子ども達が学校外で地域の方々と交流したり、イベントを計画し異なる年齢の仲間と遊んだり、地域の公園清掃を行って、社会性、知的能力、体力、創造性など子どもの成長に不可欠なものを獲得することを目標に活動しています。

近年、少年犯罪や不審者による子どもへの犯罪、子ども同士の傷害事件も増えていますが、子ども会活動を行う事により、子ども達の心の成長や家族以外の地域の方々にも見守って頂ける安心・安全な平和が丘学区子ども会を目指しております。

随時子ども会会員を募集しておりますので、新規加入やお問合せは、根木（090-5004-0529）までご連絡ください。



## □防災お役立ち情報（命の笛：セーフティ・ホイッスル）



市販品では「ウィンド・ストーム・ホイッスル」や「ストーム・セーフティ・ホイッスル」などの名前でも販売されていますが、少しの息でも遠くへ音が届く笛、ガラスや壁にさえぎられていても外へ聞こえる笛のことです。

阪神・淡路大震災発生時に駆けつけた、防災・危機管理アドバイザーの山村武彦氏は、各所で家の下敷きになった人々の助けを求める悲痛な声なき声を聞き、こうした災害時要配慮者の犠牲をなくすために、「イザッ」というとき助けや応援を呼ぶ「命の笛」の携帯が必要という結論に達しました。

アメリカの沿岸警備隊も使用するストームホイッスルと呼ばれる笛を小型化し、「命の笛」と名づけました。ストームホイッスルは群衆、騒音、爆発音などの中でも人が一番聞きとりやすいと言われる周波数3,150ヘルツに調律されています。

重量は約20g、音量は118~120デシベルであり、陸上では約800m、水中でも15m程まで届きます。イザというときのために、常時携帯しておくといいですね。

<編集後記>

早いもので、もう師走ですね。何かと忙しくなる時期ではありますが、出かける際はストーブやコタツのスイッチを切り、戸締まりを確実にを行うなど、無事に新しい年を迎えられるよう防火防犯対策を確実にしましょう。（編集 前島）



平和が丘だより

検索